

# テイルの「経験・記録」用法の習得

— 「わがこと」と「ひとごと」の側面から —

簡 卉 雯

## 要 旨

本稿は日本語学習者によるテイルの「経験・記録」用法の習得に焦点を当て、「わがこと」／「ひとごと」という側面から、日本語学習者コーパスを用い、日本語母語話者の使用実態と比較し、習得過程と使用状況を考察した。考察した結果、「経験・記録」用法のテイルの使用について、日本語母語話者では「わがこと」の場面で使用する頻度が高かったのに対して、日本語学習者では母語の違いと関係なく、主に「ひとごと」の場面で使う傾向が観察された。この使用傾向は、日本語教科書において、「わがこと」の場面が体系的に導入されていないことに起因する可能性がある。

【キーワード：テイル／経験・記録／わがこと／ひとごと／アспект】

## 1. はじめに

日本語のテイルは「進行中」、「結果残存」や「経験・記録」など多様な用法、意味を持つため、日本語学において重要な研究対象となっており、活発に議論されている（金田一1950；藤井1966；吉川1973；奥田1977；寺村1984；工藤1995；庵2001；井上2011）。その中の「経験・記録」用法は（1）に示したように、「過去の出来事を現在に関連付けて表現する」ものである（庵・清水2003：32；庵2014）。

（1） 犯人は3日前にこの店でうどんを食べている。

（庵・清水2003：32）

「経験・記録」用法はニュースや新書などでよく使用されるため、日本語学習者が新聞の内容を理解したり、さらに、レポートや論文を書いたりする際に必要があると考えられるものである（高梨2013；江田2013）。第2言語としての「経験・記録」用法の習得について、テイルの諸用法のうち、困難度が高い項目の1つであることが指摘されている（魚住1998；許2005；崔2011）。しかし、習得が困難になる要因はどこなのか、母語の異なる学習者で習得状況に違いが見られるのか、日本語母語話者の使用実態とどれだけ違いがあるのか、日本語教科書による影響があるのかなどに関しては、まだ解明されていないところが多い。

本稿では「経験・記録」に焦点を当て、「わがこと（話し手自身のこと）／ひとごと（話し手に関わりなく成立すること）」という渡辺（1991）の概念から、日本語学習者の習得状況及び、日本語母語話者の使用実態を比較した上、日本語教科書での扱い方を検討し、習得が困難となる原因を探る。

## 2. 先行研究における「経験・記録」用法のテイル

先行研究におけるテイルの「経験・記録」用法について、寺村（1984:133）では、「回顧的」として、「過去の事実を改めて確認し、ある現実の文脈の中でその意義を吟味しようとする心理を反映している」と説明し、次のような例を挙げている。

(2) 葛西善蔵ハ芥川自殺ノ翌年、昭和3年7月二死ンデイル。 (寺村1984:133)

また、工藤（2014）では、テイルの「経験・記録」用法を「パーフェクト・現在」として、時間とムードの側面から把握し以下のように説明している。

- ①〈発話時以前における運動の完成〉と〈発話時における結果、効力、記録、痕跡の継続〉という複合的な時間となっている。
- ②話し手の記憶のなかにある過去の確認済みの事実を現在に関係づける場合と、現在の間接的証拠に基づいて過去の事実を確認する場合があります、2つの異なる認識的ムードの側面が複合化されている（後者の場合には人称制限を伴う）。 (工藤2014:222-223)

「経験・記録」用法のテイルが適している文脈に関しては、工藤（1995、2014）は「話し手の現在の判断を根拠付ける（話し手の判断の理由＝推論の前提となる）過去の出来事を差し出す場合」があるとしており、「経験・記録」用法のテイルが持つ「論理性」と「解説性」を述べている。

そして、井上（2001:120）では過去の出来事を表示するテイルをタと比較し、「経験・記録」用法の「シテイル」は「有効なある統括主題（複数の類似の出来事の背景にあるひとつの状態）に従属する一事例」を表すのに対して、過去の「シタ」は「特定の統括主題に従属しない独立の出来事」を表すとしている。

庵（2001）では、従来「経験・記録」と呼ばれる用法を「効力持続」と「記録」の2つに分類している。「効力持続」については、「過去に起こった動作・出来事の結果生じた効力が観察時（多くの場合は発話時）にも存在する場合」と定義しており、以下の（3）を例に挙げて説明している。庵（2001）によると、（3）は「父は若いものの行動に理解がある」という現在観察された事実について述べる文脈であり、過去に起こった「若いころたくさん遊んだ」という出来事の影響と効力が現在、あるいは、発話時においても残っていることを表すため、テイル形が使われるという。「若いものの行動に理解がある」という事実は主語の「父」に対する有意な属性が存在しており、テイル形により異なる時点における2つの事態を結びつけると説明している（庵2001）。

(3) 父は若いころたくさん遊んでいる。だから、若いものの行動に理解がある。

(庵2001)

また、「記録」の用法は、「観察時以前の出来事を何らかの証拠に基づいて述べたり、主語の経歴として述べたりする際に用いられる用法である」と説明している（庵2001：84）。「記録」は現存する証拠に基づき述べているだけであるのに対して、「効力持続」は述部が主語に対して有意な属性付けになっていなければならないと指摘している（庵2001：85）。

上述したようにテイルの「経験・記録」は、過去に起こった出来事について述べたりする際に使用される用法であるが、その出来事は渡辺（1991）が述べている「話し手自身のこと（「わがこと」と呼ぶ）」として把握する場合と、「話し手に関わりなく成立したこと（「ひとごと」と呼ぶ）」として把握する場合とがある。「わがこと」は話し手自身の出来事や過去に経験したことを取り上げ、話題として述べる場合である。例えば、（4）と（5）では、話し手が自分自身の過去における出来事を、タ形ではなく、テイル形で表現することにより、現在に関連付け、現在においても効力があることとして提示している。従って、自分の業績などを述べる際に、テイル形で表すと、それを自慢しているかのように相手に感じさせる場合もある（谷口1997 a、1997 b、1998）。

（4）ご存知のように、私は色々な作品を発表しています。（谷口1997 a：146）

（5）A：大体仕事はあの掃除が主になると思うんですけども、あの、お掃除、得意ですか。

B：はい、もう家もピカピカに磨いておりますし。

（「上村コーパス」被験者T．O．(M)）

また、（5）のように、「もう家もピカピカに磨いた」という過去に成立した自分自身の出来事を現在判断の根拠・理由とし、現在と関連がある結論を提示する機能もある（工藤1995；簡2014）。

一方、「ひとごと」は話し手に関わりのない他者の経験や過去に起きた出来事を、テイル形を用いて現在に関連付ける場合である。例えば、（6）は橋の耐震性について語る文脈であり、話し手と関わりなく過去の出来事を表している。「5年前に壊れた」という過去の出来事であるが、テイル形で「壊れた」影響力が現在にも残していることを表す（庵他2001：85；庵2001）。更に、「だから、大きな地震が来たら心配だ」という話者の現在の判断も根拠付ける。このように、自分自身と関わりのない過去に起きた客観的な事実を根拠とし、判断を下すという点で、（6）は（5）と異なっている。

（6）この橋は5年前に壊れている。だから、大きな地震が来たら心配だ。

（庵他2001：85）

（7）渡辺（1993）は「……」ということを本に書いていますよ。

（7）は第三者の意見をまとめたり、引用したりする場面である。テイル形により過去に書かれた他説の効力を発話時点に持ち込み、現在でも有効であるかのように相手に感じさせる効果がある。このことによって、話し手はより説得力のあることを展開させていくことが可能になる（谷口1997

b : 146)。

以上から、「経験・記録」のテイルは「わがこと」と「ひとごと」の違いにより、話し手の気持ちと文脈のニュアンスが違ってくることが分かる。日本語学習者がどのように「経験・記録」のテイルを使用しているのか、「わがこと」と「ひとごと」により差があるのか、更にその使用傾向が日本人母語話者と異なるのかに関しては、検討する余地があると考えられる。しかしながら、今までこの用法の習得についての研究はあまり多くはされていない。そこで、本稿は先行研究を踏まえて、中国語、韓国語と英語を母語とする日本語学習者のコーパスである「KYコーパス」を用い、テイルの「経験・記録」意味に焦点を当て、「わがこと／ひとごと」という側面から、習熟度と母語の違いに応じて習得はどう変わるのか、日本語母語話者の使用と比較した上で、日本語教科書における取り上げ方と導入事例を検討していく。

また、テイルの「経験・記録」用法に関して、本稿では、先行研究に基づき、過去の出来事を現在に関連付けて、発話時点である現在においても影響力があることを表すと定義した。

### 3. 調査

調査のデータとして使用したのは日本語学習者コーパスである「KYコーパス」である。「KYコーパス」は「ACTFL<sup>1</sup>言語運用能力基準—話技術」に従って行われたインタビューデータであり、中には英語、中国語、韓国語を母語とする日本語学習者それぞれ30名、(初級5名、中級10名、上級10名、超級5名)、合計90名分の発話データが収録されている(鎌田2006)。また、日本語学習者の習得状況と比較するため、日本語母語話者コーパス「インタビュー形式による日本語会話データベース(上村コーパス)」を用いて、対照資料として分析に使用した。「上村コーパス」は「KYコーパス」と同じ手法のもとで採集されたOPIデータで、その内容は会話モードとロールプレイモードから構成される一人当たり15分間のOPIテスターによる個人インタビューである(鎌田2006)。本稿では、日本語学習者の人数に合わせて、「上村コーパス」から無作為に10名の日本語母語話者のデータを抽出して分析を行った。

調査手順について、まず、日本語母語話者2人に依頼し、「KYコーパス」からテイルが使用された箇所、及び使用が義務的な箇所を抽出し、誤用の箇所を適切な語形に直してもらった。次に、「KYコーパス」と「上村コーパス」から「経験・記録」意味のテイルを抽出して、分析に用いた。また、抽出段階で、テイルの意味分類に曖昧がある文を対象外にした。

### 4. 結果と考察

本節では以下の3つの側面から日本語学習者と日本語母語話者の使用例を引用しながら検討していく。

- 1) 正用と誤用の産出回数から日本語学習者の使用傾向を検討する。
- 2) 誤用の形から日本語学習者の習得を検討する。
- 3) 日本語教科書における「経験・記録」のテイルの扱い方を検討する。

#### 4.1 正用と誤用の産出回数から見た日本語学習者の使用傾向

次のページに示した図1～図3は日本語学習者によるテイルの「経験・記録」の正用と誤用の産出回数をレベルごと、母語別に示したものである。

図1～図3から、「経験・記録」用法のテイルの使用について、次のことが分かった。まず、日本語母語話者では「わがこと」の場面で使用する頻度が高かったのに対して、日本語学習者では母語の違いと関係なく、上級から使用が見られ、超級まで主に「ひとごと」の場面で使用することが観察された。次に、日本語学習者による「わがこと」場面の使用について、習熟度の上昇に従って、使用回数が多くなってきたが、超級に上がっても、「経験・記録」用法のテイルの使用傾向は日本語母語話者に近づいていないことが分かった。

例文(8)は日本語母語話者、例文(9)は日本語学習者による「わがこと」場面のテイルの使用例である。(8)は発話者自身における過去の出来事を証拠として取り出し、時給アップを求める場面である。「昼間やっている仕事で千円をいただいた」という過去に起こった自分自身の出来事を取り上げ、テイル形で表現することにより、過去を現在に関連付け、現在時給アップの理由として交渉している。

(8) 2: あの一、時間が4時から、夜の10時までということで(1: はい)、ちょっと夜の時間になりますので(1: はい)、もし、もう少し、時給の方とか考えて頂けたら、と思うんですけども、いかがでしょうか。

1: 時給は千円ですので(2: はい)、けっこう高いと思うんですね(2: はい)。夜の時間ですよ(2: はい)。うーん。

2: そうですね、昼間やってる仕事でやはり千円頂いてるものですから...

(「上村コーパス」被験者A.M.(F))

(9) そうですねー、もう先生にもいろいろいわれてるし、〈ああそうですか {笑い}〉もうちょっと頑張らなければ、〈うんー〉だめですね。(被験者K S09)

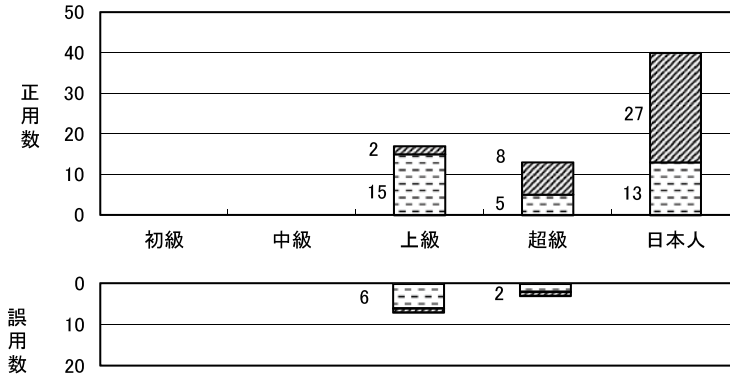


図1 中国語母語話者

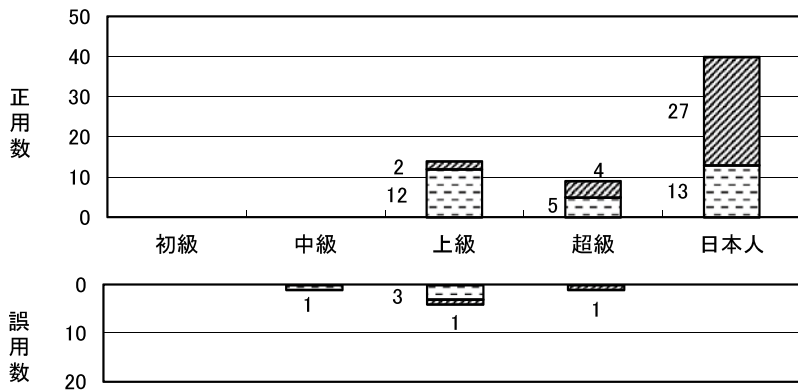


図2 英語母語話者

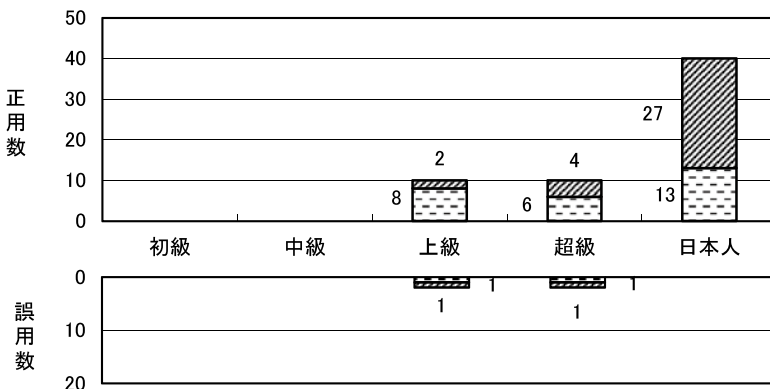


図3 韓国語母語話者

図1～図3 テイルの「経験・記録」の正用と誤用の産出回数と変化

( [wavy] は「ひとごと」、[diagonal] は「わがこと」を表す。「初級」「中級」「上級」「超級」は日本語レベル、「日本人」は日本語母語話者である。図の上段は正用数、下段は誤用数を示す。)

また、(10) と (11) は日本語学習者による「ひとごと」場面のテイルの使用例である。(10) において、「アメリカは車が中心で作られています」と「あの市は、もっと自転車を中心として、作られているそうです」は、何かの情報を通して把握した過去の出来事であると考えられる。日本語学習者はテイル形で、自分と関わりのない過去におこった客観的な出来事を話題として提示して、次に、それについて、「だから、車があれば、日本のようにすごく面倒臭くて」という自分の考えを語っている。また、(11) では、「政府はどれだけ金を出している」と「特別のあの組織を作っている」のような話し手に関わりなく成立した過去の出来事を話題として取り上げた上、自分の考えを述べている。

(10) そうですね、あの、北ヨーロッパに、〈ええ〉あの市を作る時ですね、あの、まあアメリカは車が中心で、〈ええ〉作られていますが、普通の市は、〈はい〉ですけど、あの、ある北ヨーロッパの市は、ネザーランドに、あの市は、もっと自転車を中心として、〈ええ〉作られているそうですが、〈ふん〉だから、あの、車があれば、日本のようにすごく面倒臭くて、...

(被験者 E A01)

(11) たとえ、先生は日本からいらしたんですよね、〈はい〉その政府のその環境に対するそのなんて言いますか、えーと、その政策とか、〈ええ〉え日本の場合ですと、たとえばあのー政府はどれだけ金を出しているとか、〈はい〉というのは特別のあの組織を作っているとか、その辺について、ちょっと教えていただけますか。

(被験者 C S04)

#### 4.2 誤用の形から見た日本語学習者の習得状況

表1～表3は日本語学習者による「経験・記録」用法の誤用の形と産出回数を、学習者ごとに、「ひとごと／わがこと」別にまとめたものである。表1～表3における「他：その他の誤用」はテイルを使用すべき箇所に、「ル」と「タ」以外の形式を使用した誤用、或いは、動詞の誤用である。それぞれの使用頻度が1回のみであることで、「その他の誤用」という項目に分類した。(12) と (13) は日本語学習者による「他：その他の誤用」の使用例である。また、初級と中級日本語学習者には、正用と誤用が観察されなかったため、上級と超級日本語学習者の使用状況のみを表1～表3にまとめた。(中級英語母語話者には「ひとごと」場面の誤用が1つ観察されたが、「ル」と「タ」以外の形式を使用した誤用のため、分析対象外とした。)

(12) S：はい、え、ねえねえこの新聞記事見ました。

T：なに、何か出てる。

S：何かたばこ吸いすぎて、肺ガンで死んだ人だんだん\*増えてきた (増えている) みたいですよ。

T：ええっ、でもこれ、相当吸ってる人でしょ。

S：でも一、あなたと比べたら殆ど変わらないんじゃないんですか。

T：そうかなあ、私一日一箱半位だけれど。 (被験者C S03)

- (13) あー、銀閣寺は、〈うん〉古い〈うん、うん、うん〉日本的な一、あー木から、〈ええ〉\*  
作りました (作られている)。 (被験者E I L02)

表1 中国語母語話者による「経験・記録」用法のテイルの誤用の形と産出回数  
(註：ル：誤用のル；タ：誤用のタ；他：その他の誤用)

学習者	カテゴリー	ひとつと	わがこと
上級	C A01	他	
	C A02	ルル	
	C A03	タ	
	C A H01		
	C A H02		
	C A H03		
	C A H04	ルタ	タ
	C A H05		
超級	C A H06		
	C A H07		
	C S01	ル	
	C S02		
	C S03	他	
	C S04		
	C S05		タ

表2 英語母語話者による「経験・記録」用法のテイルの誤用の形と産出回数  
(註：ル：誤用のル；タ：誤用のタ；他：その他の誤用)

学習者	カテゴリー	ひとつと	わがこと
上級	E A01		
	E A02		
	E A03	タ	ル
	E A H01		
	E A H02		
	E A H03		
	E A H06		
	E A H07		
	E A H08	他タ	
超級	E A H09		
	E S01		
	E S02		
	E S05		
	E S06		他
	E S07		



表3 韓国語母語話者による「経験・記録」用法のテイルの誤用の形と産出回数  
(註:ル:誤用のル;タ:誤用のタ;他:その他の誤用)

学習者		カテゴリー	ひとつごと	わがこと
		上級	K A01	
K A02				
K A03				
K A04				
K A05				
K A06				
K A H01				
K A H02				
K A H03				タ
K A H04	他			
超級	K S01			
	K S03			
	K S06			
	K S07	ル		ル
	K S09			

日本語学習者によるテイルの「経験・記録」用法の誤用に関しては、表1～表3から、母語の違いにもかかわらず、「ひとつごと」と「わがこと」の場面に、「ル」と「タ」という2つ異なる誤用の形が観察された。

「ル」と「タ」の誤用において、母語の違う学習者で以下のような共通の使用特徴が観察された。まず、「ル」の誤用について、「経験・記録」用法のテイルは過去の出来事を表すものであるが、未来・現在を表す「ル」形が間違っ産出されたことが観察された。このような誤用はなぜ起こったのか。これは「ル」形の機能が十分習得されていないことに起因する可能性がある。「ル」形には、テンスを表す機能のほか、物事の性質や真理や恒常的属性など時間を超える事態を表す機能もある。「ル」形の機能が十分把握されていない中で、(14)と(15)に示したような過去に起こった出来事が「時間を超える真理」として捉えられ、誤用の「ル」が産出されたと考えられる。

(14) んーありますよ、〈んー〉ん例えばこの、この本の中にはね、あの、国民党と〈えーえー〉共産党の、も戦ったんですよ、〈えーえー〉内戦のときには、もしー、あの、なな、80年代ぐらい、〈えー〉出した本なら、〈ええ〉必ず、もー、共産党の立場に立って、〈んーんー〉  
\*書く(書いている)んですよ。(被験者C A H04)

(15) あの、共同の電気とか、あとは、あの、台所のガスとか、水道とか、全部学校から、\*払ってもら(払ってもらっています)、本当にいい条件ですよ。

(被験者C A 02)

次に、日本語学習者による「タ」の誤用は例文(16)と(17)に示したようなものである。出来事時点である「過去」のみが注目され、出来事の「効力」が発話時まで残っていることには焦点が

当てられなかったことで、「夕」の誤用が産出された可能性がある。

- (16) 私は日本へ来る前にスウェーデンで2年間\*生活したん(生活していた)〈あーはーはーはー〉  
ですから、スウェーデンでは、消費税が25パーセントもありますから、...

(被験者C A H04)

- (17) 英語に\*訳した(訳している)、〈ええ〉ものは少ないですから、〈ええ〉あの、短い、短い、〈ええ〉話、〈ええ〉しか、〈ええ〉読んだことはありませんが、〈ええ、ええ〉特に、特に、晩菊、〈はい〉晩菊 〈はい〉という話と、〈ええ〉下町、〈ええ〉という 〈あそうですか〉話を読んで、〈ええ、あーそうですか〉あーほんとにいいなと思ったんです。

(被験者E A03)

#### 4.3 日本語教科書での扱い

以上の調査結果から、日本語学習者は「経験・記録」用法のテイルを「ひとごと」に使用する傾向があり、日本語母語話者は「わがこと」に使用する傾向があることが分かった。日本語学習者によるこのような誤用ではない使用傾向はどこから来たのであろうか。本節では日本語教科書において、「経験・記録」用法のテイルがどのように扱われているかについて、「ひとごと／わがこと」の側面から検討を試みる

検討方法について、高梨(2013:34)の方法を倣い、初級から中級まで一貫したシラバスで作成されたものと考えられる4種類の総合教科書シリーズ『みんなの日本語 基礎／中級』(以下『みんな』)、『文化初級／中級日本語』(以下『文化』)、『新日本語の基礎／中級』(以下『新日本語』)と『進学する人のための日本語 初級／中級』(以下『進学』)を対象に、(18)に示した3つの扱い方から、日本語教科書における「経験・記録」用法のテイルの取り上げ方を検討する。

- (18) a. その課の文法項目として扱うか。  
b. 他の文法項目に付随して扱うか。  
c. その課の文法項目以外の箇所(例文、会話文、読解教材、問題など)に非明示的に出現するか。  
(高梨2013:34)

検討した結果、日本語教科書に出現している「経験・記録」用法のテイルを、「ひとごと」と「わがこと」場面ごとに表4～表5のようにまとめた。また、表4～表5に示した日本語教科書における「経験・記録」用法のテイルの扱い方を、表6のようにまとめた。

表4 日本語教科書に出現している「ひとごと」の文（高梨（2013）及び簡（2014）より抜粋・加筆）

教科書		課	扱い		場面
『みんな』	中級 1	11	文法項目	モーツァルトは35歳で亡くなるまで600以上の曲を作っている。	ひとごと
	中級 1	11	非明示	「…」と歴史の本に書かれている。	
『文化』	中級 2	4	非明示	秋元選手はこの年最高の成績を残している。	
『進学』	中級	4	非明示	久しぶりに取り出してみると、こんなことを書いている一枚があった。	
	中級	17	非明示	それらの時代に書かれた本の中には、雪見の名所として隅田川の名が挙げられている。	

（注：文法項目：文法項目として学習、非明示：非明示的に出現）

表5 日本語教科書に出現している「わがこと」の文（簡（2014）より抜粋・加筆）

		課	扱い		場面
『新日本語』	中級 2	13	非明示	A：李さん、日本の映画、見たことがある？ B：ううん、あまり日本の映画、やってないから。日本へ来る前にテレビで何本か見たけど。小川さんは中国の映画は？ A：うん、好きだから、何本も見てるよ。最近よくテレビでもやってるから。	わがこと
	中級 2	15	付随	A：加藤さんは外の会社に勤められたことがありますか。 B：ええ、大学を出て、すぐ自動車メーカーに入りましたが、その後2回転職しているんです。そういるわけで、今の会社は3回目の会社なんです。	

（注：付随：文法項目に付随して学習、非明示：非明示的に出現）

表6 日本語教科書における「経験・記録」用法のテイルの扱い方

	みんな	文化	新日本語	進学
ひとごと	文法項目	非明示	—	非明示
わがこと	—	—	付随	—

（注：文法項目：文法項目として学習、付随：文法項目に付随して学習、非明示：非明示的に出現、「—」：なし）

表4～表6から、以下のことが確認された。まず、4種類の日本語教科書の中で「経験・記録」用法のテイルを文法項目として、取り上げているのは『みんな』のみである。

次に、日本語教科書において、「ひとごと」場面が中心に導入されており、日本語母語話者における使用頻度の高い「わがこと」場面は体系的に導入されていないことが分かった。4種類の日本語教科書の中で、「わがこと」場面は『新日本語』のみに現れており、しかも付随や非明示的な形であった。表5に示したように、第13課の「見てる」は「わがこと」場面の用法として、初めて『新日本語』に出現した用例であるが、「読もう練習」という箇所では非明示的に提示されているのみである。また、第15課の「転職している」は「会話の練習」という箇所では、その課の文法項目に付随して提示されている。これらの用法と機能は、付随や非明示的な形で教科書に入っているため、授業にお

いて素通りされる可能性が高い（高梨2013）。学習者が指導を受けないで自然に習得できるのか疑われる。

そして、表4～表5にまとめた教科書の中の用例から特に注目されるのは、「ひとつごと」は文章語、「わがごと」は会話文という点である。その用例にもかかわらず、今回の調査に使用した自然発話コーパスにおいて、日本語学習者は「経験・記録」用法のテイルを主に「ひとつごと」に使用していることが分かった。

以上の点から、日本語学習者が「経験・記録」用法のテイルを主に「ひとつごと」の場面で使う傾向は、日本語教科書において「わがごと」の場面が体系的に導入されていないことに起因する可能性があると考えられる。また、日本語学習者、日本語母語話者の自然発話コーパスと日本語教科書の分析を通して、テイルの「経験・記録」用法について、学習者と日本語母語話者の間に使用実態のギャップが存在することと、日本語教科書の文法シラバスに不十分な側面があることが明らかになった。より効率的な文法教育と自然な日本語の習得のため、テイルの「経験・記録」用法に関する現行の文法シラバスを改定する必要があると考えられる。

## 5. 結論

本稿は中国語、韓国語と英語を母語とする日本語学習者のコーパスである「KYコーパス」を用い、テイルの「経験・記録」意味に焦点を当て、「わがごと／ひとつごと」という側面から、習熟度と母語の違いに応じて習得はどのように変わるか、日本語母語話者の使用と比較調査を行った。調査の結果、日本語母語話者では「わがごと」の場面で使用する頻度が高かったのに対して、日本語学習者では母語と関係なく、主に「ひとつごと」の場面で使う傾向が観察された。この使用傾向は、日本語教科書において、「わがごと」の場面が体系的に導入されていないことに起因する可能性がある。

なお、今回の調査に使用した日本語学習者と日本語母語話者コーパスは同じ手法のもとで採集されたOPIデータであるが、両コーパスにおける会話の中の話題も同じであるとは限らないため、この使用傾向が会話の話題によるものではないことを多様なコーパスにより、更に確認する必要がある。また、今回使用した日本語学習者の自然発話データには、「経験・記録」用法のテイルの誤用産出回数が少なかったため、分析に用いられたデータは限られている。今後はより多くのデータを集め、誤用の形と誤用を引き起こす要因について、更に詳しく検証する必要がある。

## 注

- 1 ACTFLはThe American Council on the Teaching of Foreign Languages（全米外国語教育協会）の略である。

## 調査対象となる日本語教科書

スリーエーネットワーク『みんなの日本語初級ⅠⅡ』

スリーエーネットワーク『みんなの日本語中級ⅠⅡ』

スリーエーネットワーク『新日本語の基礎ⅠⅡ』

スリーエーネットワーク『新日本語の中級ⅠⅡ』

文化外国語専門学校『新文化日本語ⅠⅡ』

文化外国語専門学校『文化中級日本語ⅠⅡ』

独立行政法人日本学生支援機構『進学する人のための日本語初級 中級』

### 参考文献

- 庵功雄 (2001) 「テイル形, テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学センター紀要』 4, 75-94.
- 庵功雄・清水佳子 (2003) 『日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄 (2014) 「テイル形、テイタ形の意味・用法の形態・統語論的記述の試み」『日本語文法学会第15回大会発表予稿集』51-59.
- 井上優 (2001) 「現代日本語の「タ」—主文末の「…タ」の意味について—」つくば言語文化フォーラム (編) 『「た」の言語学』97-163. ひつじ書房
- 魚住友子 (1998) 「追跡調査に見られる『～ている』の習得状況」『研究留学生にみられる日本語発話能力の変化と日本語使用環境に関する基礎的研究』平成7-9年度科学研究費報告書100-111.
- 奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一の段階—」『国語国文』8.
- 許夏珮 (2005) 『日本語学習者によるアスペクトの習得』くろしお出版
- 鎌田修 (2006) 「KY コーパスと日本語教育研究」『日本語教育』130, 42-51.
- 簡弁雯 (2014) 『日本語学習者による「ている」のパーフェクト用法の習得』台北: 致良出版社
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の分類」『言語研究』15 (金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』5-26, むぎ書房)
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 江田すみれ (2013) 『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト』くろしお出版
- 崔亞珍 (2011) 「自然発話における日本語テンス・アスペクトの習得研究—R時の認識を中心に」『小出記念日本語教育研究会』19, 5-21.
- 高梨信乃 (2013) 「大学・大学院留学生の文章表現における文法の問題—動詞のテイル形を例に—」『神戸大学留学生センター紀要』19, 23-41.
- 谷口秀治 (1997a) 「テイル形の3つの性質(客観性、現象描写性、報告性)について:ル形との対比から」『広島大学留学生センター紀要』7, 40-48.
- 谷口秀治 (1997b) 「テイル形に関するムードの側面の考察」『日本語教育』92, 143-152.
- 谷口秀治 (1998) 「外国人に難しいスルとシテイルの使い分け」『広島大学留学生センター紀要』8, 41-49.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 藤井正 (1966) 『「動詞+ている」の意味』『国語研究室』5. (金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房97-114.)
- 吉川武時 (1971) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」(金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房155-327.)
- 渡辺実 (1991) 「わがこと・ひとごとの観点と文法論」『国語学』165, 1-14.
- Ishida, M. (2004). Effects of recasts on the acquisition of the aspectual form *-te i- (ru)* by learners of Japanese as a foreign language. *Language Learning*, 54, 311-394.